

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 総合評価シート編、4章評価項目の算定方法について(2016年) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士ソフト名古屋ビル	階数	地上14F・地下1F
建設地	愛知県名古屋市中村区名駅四丁目2108番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	955 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年1月 竣工	評価の実施日	2023年1月23日
敷地面積	990 m ²	作成者	
建築面積	782 m ²	確認日	2023年1月23日
延床面積	8,796 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>= BEE1.5</p> <p>★:S:★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B:★★ C</p>	<p>☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:30%</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア= 3.6</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.6</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.8</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.3</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.3</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>高性能の断熱材及び窓を採用することで、省エネルギー性に配慮し、冷暖房負荷を軽減し、環境負荷を低く抑えられる建築物となるように配慮した。</p>		<p>その他</p> <p>BCPIに配慮した設備計画を行っている。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>事務所内は落ち着いた室内環境となるように、吸音材を積極的に設けた。また、南側の壁を全面開口部とし自然光を積極的に取り入れる計画とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>配管部材及び空調換気ダクトについては、耐用年数の長いものを採用したほか、長期に建物を使用するにあたり維持管理が容易な部材選定及び室の配置計画を行った。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>屋根の一部に屋上緑化を設けた。また、室外機からの排熱に考慮し、室外機の大半を屋上に設ける配置計画とした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物内設備にはLED照明等高効率設備を採用することで、建物から発生するエネルギー量の低減に努めた。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>建築部材はエコマーク商品を積極的に採用し、節水にも配慮した設備を取り入れることで、環境負荷の低減を図った。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建設に伴って発生するCO₂の発生量を低く抑えることで、地球温暖化に配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性事務室の), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

富士ソフト新名古屋ビル

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.1
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.091100917	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009110092	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045550459	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.1
2. 自然共生	評価点 = 2.9
3. 循環型社会	評価点 = 3.6

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。